



世界のニュース

WORLD NEWS

衛星関連ニュース

オービタル製造KOREASAT 6 商用通信衛星が打上げに成功

—衛星はオービタルが2010年度に納入した3機目の商用通信衛星—

2010年12月30日、ダレス

世界を先導する宇宙技術会社の一つであるオービタルサイエンス社は本日、KOREASAT 6 (K6)を打ち上げたと発表。衛星は、タレスアレニアスペース社との協力のもとに韓国KT社のために製造されたもので、フランス領ギアナのクールーからアリアン5ロケットにより成功裏に静止トランスファ軌道に打ち上げられた。打上げミッションは昨日(12月29日)の現地時間午後4時26分の打ち上げで開始された。衛星は、打上げ後約34分後にロケット最終段から切り離された。

K6衛星プログラムにおいてオービタル社は、衛星設計、製造、インテグレーションと試験に責任を持っている。衛星の組み立てと試験は、ヴァージニア州ダレスにあるオービタル社の衛星製造及び試験設備で行われた。タレスアレニアスペース社は、このプロジェクトのプライム契約者として通信ペイロードの供給とK6衛星を顧客に納入する責任を持っている。それに加えて、タレスアレニアスペース社とオービタル社はともに関連の地上設備の設計と納入にも寄与している。

オービタルの上席副社長で商用衛星部門長のクリストファ・リッチモンド氏は次のように述べている。「KOREASAT 6 プログラムでのタレスアレニアスペースとの協力に関し、アリアンスペースの打上げ成功に続く初期段階での成果に我々は非常に満足している。K6衛星は、SESワールドスカイ社へのAMC-21衛星に続く2番目のタレスアレニアスペース社と我々の共同衛星プログラムである。我々の衛星の信頼できる運用と納入期間に関し、我々の協力関係が我々2社だけでなく顧客も含めて成功であったことが証明された。」

軌道上での数週間のチェックアウト期間に続き、K6衛星は、東経116度の軌道位置に移動される予定である。オービタル社のSTAR-2プラットフォームをベースとして衛星は、30の現用Kuバンドチャンネルにより、直接衛星放送サービスと固定衛星通信サービスを韓国の人々に供給する。衛星は、ペイロード用に3.4kWの電力を供給し15年間の軌道上ミッション寿命を持っている。

—オービタル 2010.12.30 プレスリリース記事—

写真リリース

ヒスパサットグループ向けスペースシステム ロラール製造衛星が打上げ後軌道変更を開始

2010年12月30日、パロアルト

商用衛星の供給で先導するスペースシステムロラール社は本日、ヒスパサットグループ向け設計、製造されたヒスパサット1E衛星が計画どおり打上げ後軌道変更を実施することを発表した。フランス領ギアナからアリアン5ロケットによって成功裏に打ち上げられた後、衛星は、水曜日の午後に太陽電池アレー

を展開した。本日これから、静止軌道への移動を開始するため主スラスタを点火する予定である。

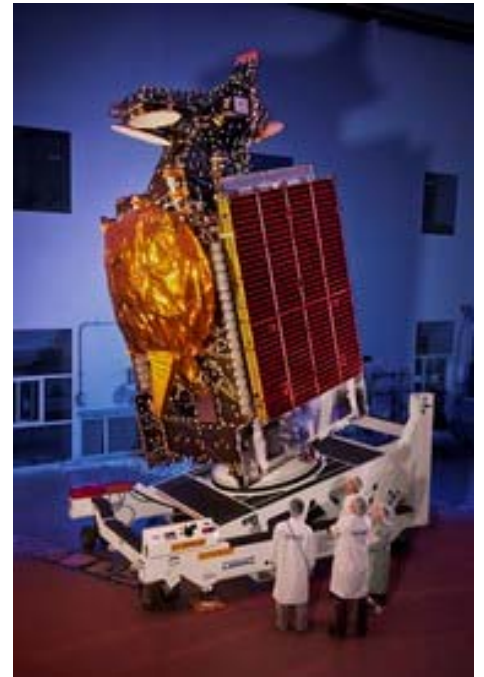
「ヒスパサット1Eは、2010年に打ち上げられた5番目SS/Lの衛星であり、世界中の娯楽、情報とソーシャルサービスを拡大する、また一つのマイルストーンを達成した。」とスペースシステムロラール社のジョン・セリ社長が述べている。「私は、この打上げを精巧に導くために非常にハードに働いたヒスパサット社、アリアンスペース社そしてSS/Lの全ての優秀な技術者に感謝したい。」

ヒスパサット1Eは、軌道上試験完了後西経30度に位置する予定である。53の高出力Kuバンドトランスポンダを持ち、ヨーロッパ、アメリカ、北アメリカの顧客に直接衛星放送、地上デジタルテレビジョン、地上、海上移動体向け付加価値ブロードバンド通信そして高精細テレビジョンサービスを供給するように設計されている。

「5機計画されているうちの2機目であるこの新しい衛星で、ヒスパサットは、スペインとポルトガル市場での主導権を強めることになる」とヒスパサットの会長であるペトラ・マテオスが述べている。「ヒスパサット1E衛星の製造のような野心的且つ複雑な構想を実現するのに協力してくれたスペースシステムロラール社に感謝したい。ヒスパサット1E衛星は、非常に技術的に進んだ高性能衛星であり、スペインの産業が重要な役割を担うことで産業界に高い技術のリターンももたらしている。」

ヒスパサット1Eは宇宙実証されたスペースシステムロラールの高信頼1300プラットフォームをベースとしている。このプラットフォームは、広い範囲の応用と技術進歩をサポートする柔軟性に配慮して設計されている。この打上げによりスペースシステムロラール製の静止衛星は、今や、65機に達することになる。

—ロラールスペースコミュニケーション 2010.12.30 プレスリリース記事—



▲ 射場移動前のHISPASAT 1E

ユーテルサットのKA-SAT、成功裏に東経9度の静止位置へ、軌道上試験を実施中

2011年1月13日、パリ

打上げ後、全ての計画された軌道変更を成功裏に完了し、ユーテルサットコミュニケーションのKA-SAT衛星は最終的な軌道位置である静止軌道上東経9度に到達した。

1月8日に衛星搭載機器は電源オンされ、ヨーロッパ初の高スループット衛星の一連の軌道上試験の開始が可能となった。その後、衛星とインターネットバックボーンへ接続する地上局ネットワークを含めた総合検証のフェーズに移行する予定である。商用サービスへの移行は、計画どおり2011年の5月末の予定。12月26日の打上げ以降運用は、ユーテルサットのRambouillet テレポートで集中して行われており、この間40メートル翼長のソーラーパネルの完全展開、ヨーロッパと地中海沿岸に向けて82のスポットビームを生成する4つのアンテナの展開も実施されている。

アストリウムによってユーテルサットのために製造されたKA-SATは、ブロードバンド通信とデータサービスを提供する大容量マルチスポットビーム衛星の先駆けとなる。

—ユーテルサット 2011.1.13 プレスリリース記事—